

保護者からの手紙（第4回-7）

尾道100km徒歩の旅のスタッフの皆様へ

8/6～8/10の100kmの旅では大変お世話になり、ありがとうございました。
スタッフの方々が随分前から研修や、準備を重ねられたと聞いております。
他人の子ども達を預かるということで、
気を遣われ、御苦労も多かったと思います。ありがとうございます。

私は4年生の長男を初めて、100kmの旅に参加させていただきました。
最初は、「きたえてもらおう」と安易な気持ちで参加申し込みをしたと思います。
しかし、研修会への参加や、日がだんだん近づくにつれ、
とても不安になりました。

「本当にうちの子がやれるんだろうか」「泣いて帰ってくるんじゃないかな」と、前日の夜はねれないくらいでした。
でも「大丈夫、あんなに頼もしい大学生のお兄ちゃんやお姉ちゃんがついてる」と思い、背中を押してやることができました。

とは言え、出発の時は泣き、毎日、コース日程とにらめっこ。

「今はこの辺だな」「どうしてるかな」とイライラ。
仕事から帰る時も「もしかしたら、家でゴロゴロしてたりして」と思ったり、
「やっぱりかわいそうなことをしたな、この暑い中、しんどいだろうな」と後悔したり。
4日目には「ここまでがんばったからもういいかな、迎えに行ってもいいかな」とまで思いました。

でもその都度、研修会での映画を思い出し、
「親もしんぼう」と思い、ぐっところえました。

そして5日目のゴール。

そこには最高の笑顔で、友達とゴールテープを切る子どもの姿がありました。
やり切った自信にみなぎっていました。

多くは内容について語りませんでした

「おかあさん100kmに行って良かったよ」と一言。

そして思い出のTシャツを何度も見ているのを見て、
「行かせて良かった」と思いました。

特に帰ってから何か変化があったというわけではありませんが、
長男で甘えん坊だった顔が随分大人びて見えるようになったのと、
前より素直に「～してくれてありがとう」と言ってくれるような気がします。
それよりなにより、子どものすごいエネルギーを私自身感じる事が出来、
信じて待つことの大変さを学ぶことが出来、

子ども以上に得ることの多い旅でした。ありがとうございました。

皆様にどうしてもお礼が伝えなかったのですが、
どう伝えてよいのかわからずとりあえずペンをとりました。
乱筆乱文で申し訳ありません。

（わがままな子ども達をはげまし、支えて下さった大学生の皆様
本当にお疲れ様でした。）

（追伸）

何をお手伝い出来るかわかりませんが、
これから何か出来ることがあればお伝え下さい。
子どもと共に親もお手伝い出来たらと思います。